

ユーザーが希望する装置を オリジナル仕様にカスタマイズ

有限会社吉則工業

<http://www.yosinori.co.jp/>

大阪
21



世界最大級ロボット「HAJIME ROBOT 33」

Company Profile

有限会社吉則工業

住 所／〒555-0032
大阪市西淀川区大和田
1-2-23
創 業／昭和35年
設 立／昭和52年3月
資本金／1,000万円
従業員／3名
T E L／06-6475-0067
F A X／06-6475-0274

■主な事業内容

機械設計・製作・据付調整及
びメンテナンス

■主な取引先

鉄鋼メーカー、ベアリングメー
カー、機械メーカー、研究機
関、消火器メーカー等



軸受け疲労試験機

軸受け疲労試験機（スラスト式）

軸受け疲労試験機（ラジアル式）

最軽荷重0.1kg実施可能 最新ベアリング試験機

同社は、昭和35年創業以来、現場
作業者の立場にたった機械づくりを
モットーに、設計・製作・据付調整及
びメンテナンスまでの一貫生産を行っ
ている。大学の研究機関からの依頼で
作り始めたベアリングの試験機は、金
増社長自らが開発・製造した。従来
の試験機は装置も大変大きく、金属
等の高荷重製品を主な対象にしてい
たが、依頼の製品は金属ではなく樹
脂を対象としていたので、軽荷重でな
ければならなかった。そこで金増社長
により、0.1～50kgといった軽荷重
を対象（金属・非金属でも可能）にし
た装置が生まれた。また、任意に回
転数を設定できるため用途に合わせ
た柔軟な実験が可能になった。

金増社長長発案の機械や開発技術
は大学の研究室で活躍し、アカデミッ
クな機関でも評価されている。
試験機は、スラストベアリングとラ
ジアルベアリング（回転曲げ疲労試験
も可能）の性能を試験する装置をそ
れぞれ製造している。今後は、ますま
す試験機に注力し、研究者の希望す
るオリジナルな仕様の装置をカスタ
マイズしたいという。

資源を節約に導く 消火器粉末回収装置

以前、同社が消火器メーカーから、
消火器の解体についての相談を受け
たのを機に、開発したのが消火器解
体装置だ。消火器粉末回収装置も
社長開発のオリジナル。消火器の圧
力容器内の粉末が固まり、容易に回
収できないという課題があったが、何
度も試行錯誤を繰り返した末、消火
器を噴射するのと同じ原理の利用
を思いついたという。古い消火器は、フ
タを空けるのも危険だが、この装置
は、全自動なので危険も少ない。1時
間に40～60本の消火器から粉末を
回収できる。消火器の本体は金属な
ので、ほぼ全ての素材が再利用でき
る。また、粉末消火器の粉末薬剤も
リサイクル利用が認可されたため、
資源の節約にもつながる。消火器粉



消火器解体装置

末回収装置のトップシェアを目指
し、国内全域に販売展開している。
また、金増社長は異業種交流グ
ループでロボットの開発も行っている。
世界最大級、身長2m10cmの二足歩
行ロボット「HAJIME
ROBOT 33」を発表。数々のロボッ
トショーに出展、様々な賞を受賞して
いる。ロボットの膝関節にあたる部分
に、同社で加工・組立した減速モー
ターが使用されている。「将来的には、
これらの技術をもっと改良し、介護
用ロボットなどを作って社会貢献し
たい」と金増社長は意欲を燃やす。

当社のセールスポイント

ものづくりを通して常に
人に、社会に、地球に
限りなく貢献します。



代表取締役
金増 健次さん

地域の子どもたちを集め、「サッカー
するロボット」を楽しんでもらうイベント
を企画しました。企業として地域活動
は非常に大切。今は「ものづくり」に
ついて、知らない子どもが多い。昔な
ら町工場をちょっとのぞけば、ものづく
りの工程も見られましたが、そのような
光景が失われた中、子どもたちに「製
造業」のおもしろさを伝えていきたい。
今後も、ものづくりを通して、子ども
から高齢者まで、全ての人々に貢献で
きるよう取り組みます。